

今日もたべた？本ごはん

めざせ目標冊数！

とうごうしょうがっこう とうしょかん へいせい ねんど がっこう
東郷小学校 図書館だより 平成30年度 7月号



あまがわ うつく きれいな季節

つゆ あ そら あお なつ ま たいりん はな さ
梅雨が明けると、空の青さが夏らしくかがやきを増し、ひまわりが大輪の花を咲

かせる季節の到来です。もうすぐ待ちに待った夏休み。もう夏休みの計画を立てて

いる人もいでしょうね。今年の夏休みは44日間です。普段できないような、い

ろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。

そして、長い夏休みは“読書”のチャンスです。いつもは読めないような長い物

がたり 語 やちよっとむずかしい本に挑戦してみるのもいいですよ。



7月1日 どうよう ひ どうわ ひ 童謡の日・童話の日



きょうは、
なんの日？

1918年(大正7年)のこの日、童話と童謡を創作する最初の文学運動として、鈴木三重吉さんが児童雑誌『赤い鳥』を創刊しました。

このことにちなんで、日本童謡協会が、1984年に制定した記念日です。

童話—新美南吉さんの「ごんぎつね」や芥川龍之介さんの「蜘蛛の糸」、童謡—西条八十さんの「かなりや」、北原白秋さんの「ゆりかごのうた」などの作品が掲載されました。



うた

7月の詩

うろろうろ
大きなア리가
あつい空気が
じゅつと
けむりになった
レンガべいの上を

みずかみ かずよ
夕立 ゆうだち
夕立がきた

ぎんのしずく
木の幹はたたかれて
いつせいに羽をふるう
せみたちが
びーんと
夕立がやんだ



お知らせ

夏休みまでの図書室お休みの日：7月5日(木)

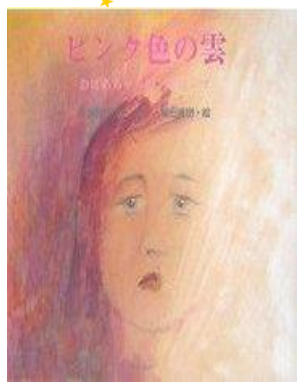
- ・1学期の本の貸し出しは **7月11日(水)まで** です。
- ・1学期に借りた本は **7月13日(金)までに** 返してください。
※7月12日(木)~16日(月)までは本の貸し出しはありません。
- ・夏休み前の本の貸し出しは **7月17日(火)~19日(木)**です。
- ・夏休みの本の貸し出しは **7月24日(午後のみ)・27日(午前のみ)**です。
- ・本の貸し出し時間 **10:30~12:00** と **1:30~3:00** ひとり**5さつ**
《8月1日・21日(出校日)は下校時刻までに借りましょう。》





7月 今月のいいね!

し 知ってほしい 日本であった戦争のこと。



『ピンク色の雲』

宇留賀佳代子 文/稲田善樹 絵/てらいんく

空にむくむくわいてきたピンク色の雲を うっとりながめてた。あの
いまわしい おそろしい 原子爆弾とも 知らずに・・・
今、どれだけの子どものたちが、日本も戦争していたことを知っ
ているのでしょうか。
戦後60年を過ぎて、まだ、心の傷、からだの奥に潜む原爆の痕に苦し
む人たちの深い悲しみ。私たち日本人が、けっして忘れてはいけない
記憶がここにあります。多くの子どもたちに届けたい1冊です。

～ 今月は戦争に関する本を集めました ～



『えっちゃんのせんそう』

岸川悦子 作/狩野ふきこ 絵/文渓堂

えっちゃんが、本当の「せんそう」を知ったのは、たった一人の大切
な友達、たちんとお別れしたときでした…。一人の少女を通して
戦争で失われた「いのち」の尊さを問いかける絵本です。



『戦火のなかの子どもたち』

岩崎ちひろ 作/岩崎書店

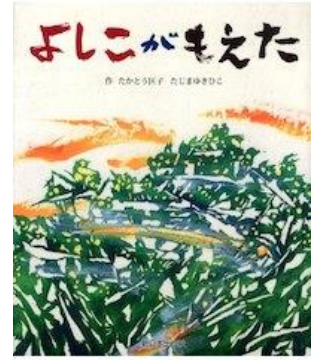
ベトナム戦争で死んでいった子どもたち、生きぬいてきた子ども
たちへの熱い思いがこめられた絵本。
いわさきちひろさんの最後の絵本です。



『ヒロシマのいのちの水』

指田和 文/野村たかあき 絵/文研出版

1945年8月6日、ヒロシマの比治山うらにあった託児所で、子
どもたちの世話をしていた宇根さん。あの日生き残った著として、
宇根さんには、どうしてもはたしたい約束がありました…。
原爆慰霊碑に清水をそなえつつける一人のおばあちゃんのおは
なしです。



『よしこがもえた』

たかとう匡子 作/田島征彦 作/新日本出版社

真夏の青いお空の下。妹のよしこと私は馬に引かれた荷車からこ
ぼれ落ちる大豆を拾いながら、となり町までついていく。その日のお
昼、お母さんは赤ちゃんを生んだ！私もよしこも嬉しくて顔をのぞき
こんだり、髪の毛にさわったりして母さんに何度もしかられた。夜空
の星も輝いていたそんな日の真夜中。その時がやって来た。けたたま
しい空襲警報のサイレンが鳴り、家族はみんな逃げ出します。お母さん
は生まれたての赤ちゃんをしっかりと抱きしめています。わたしとよ
しこの近くで焼夷弾が炸裂して、わたしたちはふきとばされた。
あっよしこの手がはなれ・・・



『禎子の千羽鶴』

佐々木雅弘 著/学研パブリッシング

1945年、広島市に投下された原爆によって被爆し、10年後
に原爆症を発症。12歳で亡くなるまで、弱音を吐くこともなく、
周囲の人を思いやりながら千羽鶴を折り続けた、佐々木禎子さん
の真実の物語を、実の兄が綴った本です。

